

トップインタビュー

The way forward

高付加価値製品の展開を強化し、
環境改善と事業成長の両立に貢献。

第68期上期は、グローバル市場における自動車生産台数の減少により売上高は前年同期水準に留まりましたが、一方で営業利益は前年同期比142%となりました。これは前期に引き続き、国内外市場でMORESCO Green SX(MGS)製品を中心とする高付加価値製品の営業強化に努めたことや、原価低減をはじめとする収益改善への取り組みが進んだことによる結果です。また、難燃性作動液のリサイクルや再生油の活用拡大などサーキュラーエコノミーへの貢献についてもグローバルでの展開を強化しています。部門別では、特殊潤滑油部門は自動車生産の減少によりダイカスト用離型剤の売上高が微減となったものの、高真空ポンプ油や水溶性切削油剤で新規顧客を獲得できたことに加え、データセンター向けの投資が引き続き堅調だったことで、ハードディスク表面潤滑剤の売上が好調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。ホットメルト接着剤部門では衛生材用途の需要が減速したことや、中国でのフィルター需要の落ち込みにより売上高は前年同期比減となりました。今後、グローバル生産体制の見直しを検討していきます。素材部門は新たに立ち上げた生産ラインで流動パラフィンとスルホネートの生産量を需要に応じてコントロールできるようになったことで、生産効率の改善が図られました。加えて、上期はポリスチレン用途が堅調に推移し前年同期を上回る売上高となりました。

グローバルR&Dの体制強化を進めてきた成果も出始めています。例えば中国の電気自動車(EV)向けギガキャスト用離型剤の開発など、現地の需要を捉えた製品開発が各国で着実に進行中です。国内では、当社独自の世界最小レベルのナノエマルジョン技術を生かした高機能化粧品の販売がスタートし、ユーザーからはすでに高い評価をいただいています。また、耐放射線性潤滑剤については、従来の加速器や廃炉作業用途だけでなく、世界的に研究が進んでいる核融合発電や宇宙産業の現場での活用が期待されており、さまざまな研究機関や学会発表にも参画しています。下期以降は、2030年までの目標である「GHG排出量46%削減」、「MGS製品の売上比率50%」に向け、環境性能はもちろん、省力化や省コスト化などお客様の事業成長に資する付加価値を持つ製品の拡販を一層加速します。研究開発型企業として、各国のトレンドやニーズをMORESCOグループ内で共有しながら、社会の期待を超える製品をお届けしてまいります。

株式会社 MORESCO

代表取締役社長 CEO 両角 元寿

MORESCOグループ
統合報告書2025

いま、MORESCOの研究開発がめざすもの

今年5月、取締役 執行役員 CTOに福田が、社外取締役に酒井が就任いたしました。
両名の抱負とともに、当社の研究開発の現状をご紹介します。



既存事業の深化と 新規事業の創出に向け、 全社的なR&D体制を 一層強化。

取締役 執行役員 CTO 福田 勝人

MORESCOの強みは、モノとモノが触れ合う境界領域において高い市場シェアを持つ製品を数多く保有していること、そして特に境界領域の技術を活用した多数の新規事業の創出が進んでいることだと考えています。CTOとしては、研究者たちが自由闊達に研究開発や製品開発に取り組み、常に好奇心を持って新たな技術やアイデアを見いだせるような環境づくりを推進しています。また、当社の特徴的な取り組みとして、業務時間の一定割合を個々の関心の高いテーマに充てる「研究班活動」を継続して実施していきます。同時に、顧客ニーズに的確に応えるため、適材適所の人材配置など体制強化にも努め、研究開発における成果の獲得とスピードアップを図っていきます。既存事業においては、機械学習などの新たなデジタルツールを積極的に活用し、配合設計の効率化や代替材料の検討プロセスの簡素化を進めています。これにより、原価低減による収益性の向上と、製品の高機能化への注力による競争優位性の確保をめざしています。

新規事業については、社内では事業部を横断した連携を、社外とは産官学連携を図る開発プロジェクト「MOLGADC」を

中心に展開し、社会に新たな価値を継続的に提供できるよう取り組んでいます。特に新規事業の推進には、各事業部の製品開発チームとの連携が不可欠ですので、研究者同士が研究成果や技術情報を共有・討議する「R&D会議」をさらに活発化させていく方針です。このR&D会議では、研究開発テーマや新製品の開発・販売状況を随時確認し、必要に応じて速やかにプロジェクトの立ち上げや開発チームの編成を行っていきます。また、最近では海外拠点の研究者が参加する「グローバルR&D会議」も開催しており、国外市場の状況を踏まえたグローバルなR&D体制の強化が進んでいます。さらに、当社グループにない機能や技術を持つ会社との提携やM&Aも積極的に検討しており、外部資源を活用した新たな価値創出にも力を入れています。

今後も、R&D体制の強化を企業価値向上につなげ、より迅速かつ効率的な研究開発の実現に向けて邁進してまいります。

次世代事業の
創出について



Pick up!

MOLGADCプロジェクト

現在、特に有望な研究テーマを一部ご紹介します。



バイオガス由来のバイオギ酸の製造

北海道興部町や大阪大学などと共同で、バイオガス中のバイオメタンを原料にギ酸を生み出す技術開発と実用化を進めています。現在は、北海道のバイオガスプラント内にベンチプラントを設置し、実装化研究を進めている段階です。製造したバイオギ酸を活用して潤滑油やポリマーなどを創出することで、カーボンネガティブの実現に貢献する、当社のコア技術の創出をめざしています。



北興バイオガスプラント



ナノエマルジョン技術の実用化

18nm以下の極小の乳化粒子の作製を可能にする当社独自のナノエマルジョン技術を活用した、自社ブランド化粧品「イリグラシア」を開発。2025年度から化粧水および美容液のオンライン販売を開始しました。日焼け止めなど他のスキンケア用品や、ドラッグデリバリーシステムにも応用できる期待の技術です。



Instagram

MORESCOの さらなる成長に向け、 技術と経営の橋渡しを。



社外取締役 酒井 浩志

私はハードディスク表面潤滑剤のユーザーとして、また定期的な技術交流会を通じてMORESCOグループと接点があり、技術志向の企業体制に共感を抱いていました。特に、経営トップが「研究開発型企業」を宣言し、MORESCO Green SX製品の開発といった成果にコミットする姿勢は、研究者のモチベーションを高め、意思決定を早め、企業としての強みをステークホルダーに訴求するうえで非常に重要だと考えています。

一方で、MORESCOの次なる成長には、持ち前の高い開発力・技術力をさらに広く発揮させる舞台が必要だと考えており、そのための外部とのネットワークづくりに貢献するのが私の大きな役割の一つだと認識しています。グローバル規模で各企業の事業環境やニーズが激動し、技術革新が起きている昨今、従来参入していた市場だけでなく異業種にも飛び込み、お客様の潜在ニーズに応える製品を開発・上市するマーケットアウトの姿勢がより一層重要になるからです。

いま世界で求められている製品・技術は何か、そこにMORESCOはどう貢献できるのかを考え、協業相手や新たなお客様を探しながら、研究開発型企業としての魅力を高め、広めるための新たな仕組みづくりに努めます。

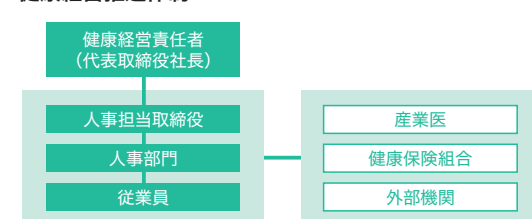
MORESCO 年間トピックス

3月 | 健康経営優良法人2025(大規模法人部門)5年連続認定

健康経営に関するさまざまな取り組みが評価され、優良な健康経営を実践している企業として、5年連続で認定を受けました。すべての従業員がいきいきと働き、個々の能力を最大限に発揮できる職場づくりをめざし、今後も従業員とご家族の健康増進に一層努めてまいります。



健康経営推進体制



5月 | SUBCON Thailand 2025に初出展

タイで開催された本展示会に初めて独自ブースで出展し、超硬用研削液や少量塗布型のダイカスト用離型剤などを紹介しました。会場には多くの人が訪れ、出展企業間の交流やEV部品のマッチング商談会も活発に行われました。



5月 | 第12回化粧品産業技術展 (CITE JAPAN 2025)に出展

第12回化粧品産業技術展に、化粧品原料のナノエマルジョンを出展しました。また、出展者技術発表会では、ナノエマルジョンの皮膚浸透性や紫外線防御性などの機能向上に関する技術紹介を行いました。





成長を加速させる財務戦略

ROIC(投下資本利益率)の考え方を生かした経営を進め、収益性と資本効率性の意識を現場レベルまで徹底。

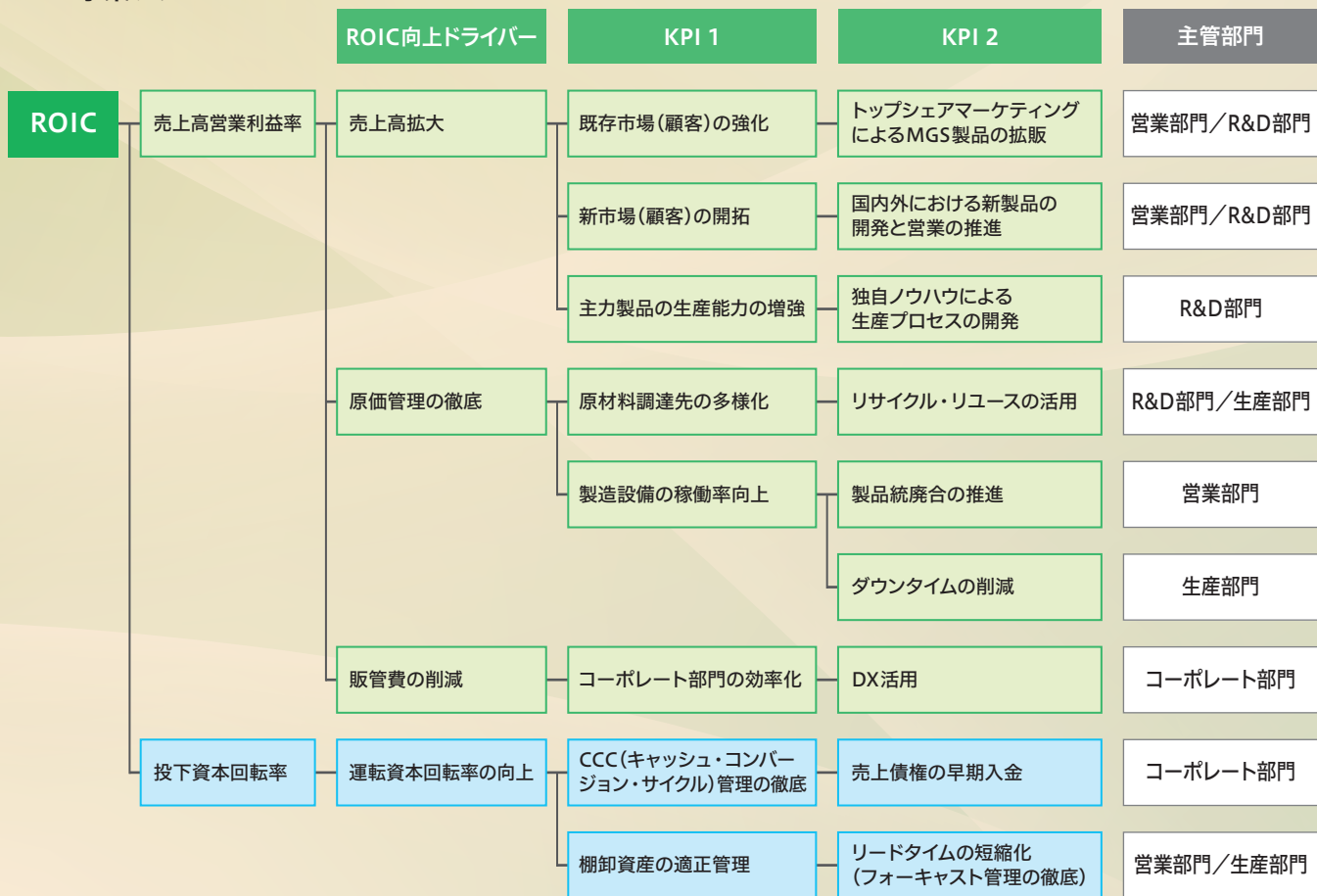
当社グループではROICの考え方を生かした経営を推進しています。前期からは、各事業部で事業ROICツリーを作成し、現場レベルでの取り組みをKPIとしてROICツリーに落とし込み、目標管理を行っています。今期はその精度をさらに高めることで、ROICなどの財務指標を改善していきます。キャッシュ・アロケーションについては、これまでR&D比率(売上高研究開発費比率)はおおむね4～5%の水準を確保しており、今後もその水準を維持する方針。今期後半には、前期に取

得した「第2研究センター(仮称)」への設備投資が本格化する見込みです。当社グループの強みである研究開発体制をさらに強化していきます。このように、今期はROICツリー展開により確認できた財務KPIと現場の取り組みのつながりをもとに、研究開発力の発揮に結びつく成長への投資、業務プロセスの見直しによる財務面での支援、7つのマテリアリティとの連携などを柱に財務戦略を実行し、企業価値向上を図っていきます。

R&D比率(売上高研究開発費比率)

(百万円)	2021年/2月期	2022年/2月期	2023年/2月期	2024年/2月期	2025年/2月期
研究開発費	1,360	1,359	1,246	1,321	1,599
売上高	24,479	27,300	30,333	31,886	34,374
R&D比率(売上高研究開発費比率)	5.6%	5.0%	4.1%	4.1%	4.7%

ROIC事業ツリー



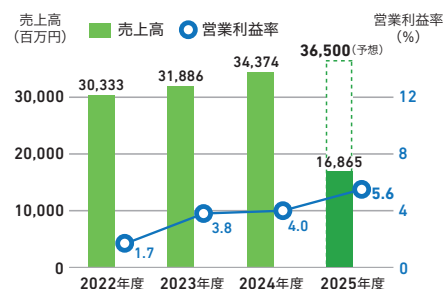
「KPI2」を達成するために主管部門で個別の先行指標の管理も行っています。ROICツリーの作成と運用を通じ、従業員一人ひとりの日々の活動とROIC指標のつながりが明確になっています。また、バランスシートに着目した管理指標への意識の高まりも確認できており、資本収益性向上につながる取り組みとして期待しています。

主な連結財務指標

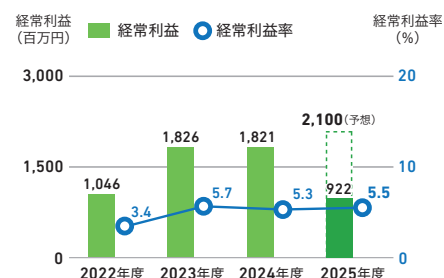
当中間連結会計期間におけるわが国経済は、米国との関税交渉の妥結を受けた不透明感の緩和から安定的に推移しました。一方で米国関税の増額により製造業の企業収益は圧迫されました。世界経済においては、米国による関税政策が世界経済に及ぼすマイナスの影響、中国の景気減速、ウクライナ戦争や不安定な中東情勢による資源価格の上昇懸念があり、先行きの景気は、不透明な状況が続くことが想定されます。

このような状況のもと当社グループにおいては、国内外で自動車生産台数が減少したことなどを受け、売上高は16,865百万円（前年同期比1.4%減）となりましたが、販売価格の是正、販売費及び一般管理費の抑制により、営業利益は949百万円（前年同期比41.5%増）となりました。一方で、為替差損の影響により、経常利益は922百万円（前年同期比4.5%減）、親会社株主に帰属する中間純利益は506百万円（前年同期比12.1%減）となりました。

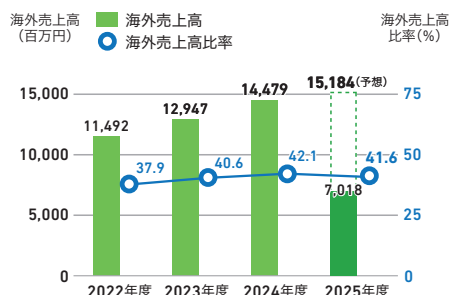
売上高と営業利益率



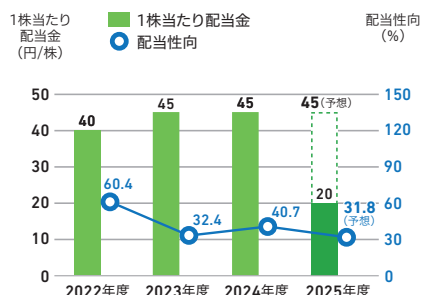
経常利益と経常利益率



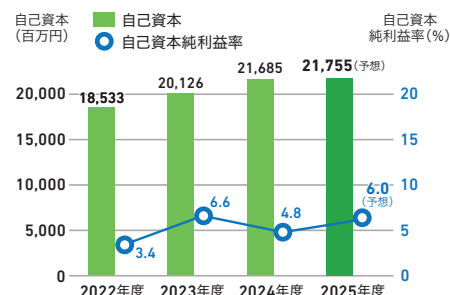
海外売上高と海外売上高比率



1株当たり配当金と配当性向

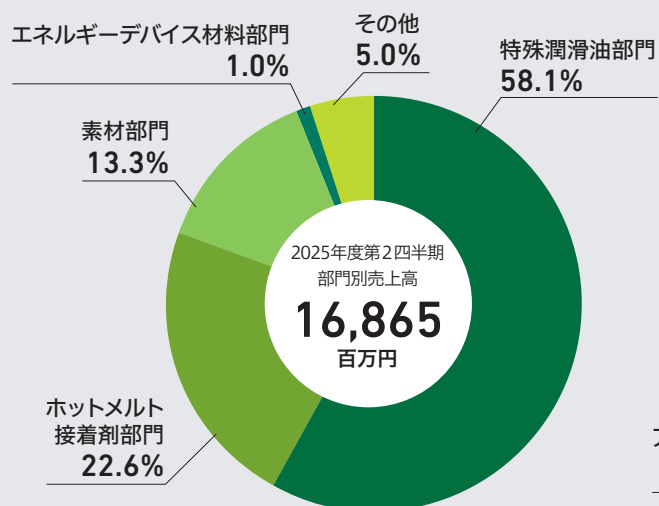


自己資本と自己資本純利益率(ROE)

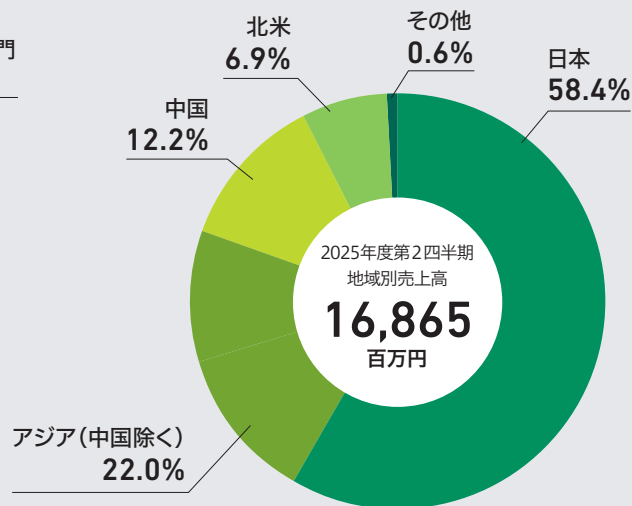


セグメント情報

部門別



地域別



株主優待のご案内

当社では、株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、投資の魅力を高め、より多くの方々に当社株式を中長期的に保有していただくことを目的として、株主優待制度を実施しております。今後も株主の皆様への期待に応えるため、さらなる成長を目指してまいりますので、何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご優待内容

保有株式数および継続保有期間	優待の内容
300株以上かつ継続保有期間3年未満	QUOカード3,000円分
300株以上かつ継続保有期間3年以上	QUOカード4,000円分

毎年2月末日現在の株主名簿に記載または記録された、当社株式3単元(300株)以上を保有されている株主様を対象といたします。

継続保有期間3年以上とは、2月末日および8月末日時点の株主名簿に同一株主番号で連続7回以上記載または記録されることといたします。

※300株未満の株式を保有されている株主様が300株以上に買い増しされ、2月末日時点で300株以上を保有されている場合、300株未満の保有期間も継続保有期間に含まれます。

贈呈時期

毎年5月下旬に事業報告書に同封して郵送いたします。

〈当社株式の保有期間の確認方法について〉

ご自身が保有されている株式の保有期間の確認をご希望の株主様は、以下の番号にお問い合わせの上、株式の異動に関する証明書の発行をご依頼ください。

【連絡先】三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

【電話番号】0120-094-777(通話料無料)

【受付時間】土・日・祝日等を除く平日9:00～17:00

会社概要・株式情報 (2025年8月31日現在)

■会社概要

商号	株式会社MORESCO
設立	1958年10月27日
資本金	2,118,294,000円
従業員数	376名

■本社および事業所

本社・研究センター	神戸市中央区港島南町 5丁目5-3 電話078-303-9010(代表)
支店	東京支店／大阪支店
営業所	名古屋営業所
工場	千葉工場／赤穂工場

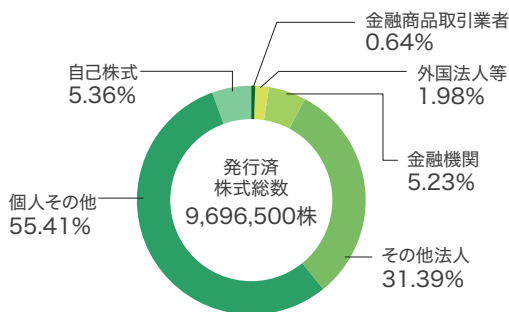
■役員構成

代表取締役社長CEO	両角 元寿
取締役専務執行役員COO	瀬脇 信寛
取締役常務執行役員CFO	藤本 博文
取締役執行役員海外担当	細見 次郎
取締役執行役員CTO	福田 勝人
社外取締役	酒井 浩志
取締役常勤監査等委員	本田 幹夫
社外取締役監査等委員	中上 幹雄
社外取締役監査等委員	中塚 秀聡
社外取締役監査等委員	富士ひろ子

■株式の状況

発行可能株式総数	………20,000,000株
発行済株式総数	………9,696,500株
株主数	………15,735名

■株式所有者別分布状況



■大株主

株主名	持株数	持株比率
松村石油㈱	1,067,000	11.6%
コスモ石油ルブリカンツ㈱	503,000	5.4%
MORESCO従業員持株会	420,820	4.5%
日本曹達㈱	365,000	3.9%
スターライト工業㈱	326,000	3.5%
株みずほ銀行	250,000	2.7%
㈱三菱UFJ銀行	250,000	2.7%
大阪中小企業投資育成㈱	209,600	2.2%
島貿易㈱	165,000	1.7%
協同油脂㈱	164,000	1.7%

※持株比率は自己株式(519,320株)を控除して計算しております。

株主メモ

■事業年度

3月1日～翌年2月末日

■期末配当金受領株主確定日

2月末日

(中間配当を行う場合)

8月31日

■定時株主総会

毎年5月

■株主名簿管理人および

特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

■同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目
6番3号

TEL:0120-094-777(通話料無料)

■上場証券取引所

東京証券取引所

公告の方法

電子公告により行う

公告記載URL

<https://www.moresco.co.jp/ir/notice.php>

(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

◎株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

◎特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。

◎未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

